

# 被災者の支えに

八千代市 難病押しして健康相談  
太田医師

宮公災害津歌

運動神経細胞が侵されて徐々に筋肉が動かなくなる難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）を患っている千葉県八千代市の医師・太田守武さん（48）が20日、南三陸町歌津地区の災害公営住宅を訪れ、住民の健康相談に応じた。病気が進行し、体は不自由な状態だが、東日本大震災でつらい経験をした住民の支えになろうと、約1年ぶりに再訪した。

## 「先生には感謝しかない」

太田さんは元々、神奈川県相模原市で訪問診療を行っていた。震災直後には気仙沼市や南三陸町でがれき撤去などのボランティアに入ったが、2014年3月、ALSと診断された。

病気は徐々に進行。体を動かすことも話すこともできないが、「被災

者の心のケアが必ずの上で目を動かし、要」と昨年8月、伊里前復興住宅集会所を訪れ、住民らの健康相談に応じた。

今回は、妻の友香利さん（35）をはじめ、看護師や東京情報大、大分県立看護科学大の学生ら30人とともに同集会所を訪問。相談に来た住民に対し、車い

られています。来年もまた来ますからね」と、優しく励ました。

伊里前復興住宅で一人で暮らす三浦きよるさん（84）は「先生に相談して安心した。病気の体なのに私たちのために遠くまで来てくれる先生には感謝しかない」と話した。

太田さんは昨年8月の南三陸町訪問後、気管と食道を分離する手術を受けたことで、そ

れまでできなかった口から食事をとることが可能になった。今年4月には代表を務めるNPOの事業で、訪問介護と重度訪問介護を担う事業所「訪問介護かぼすケア」を開設。医療的ケアを行える介護士の育成などを目的に事業を始めた。

「多くの人に救われた分、残りの人生を人のためにささげたい」と太田さん。「被災した皆さんがうれしい思いを吐き出せるよう、継続した支援を続けていくことが大切」と力を込めた。

展開しており、意欲的に活動を続けている。「多くの人に救われ



住民の相談に応じる太田さん